

PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

『授業で貞潔を教えるべきでしゅうか?』

30年前に学校で性教育をすることを誰かが提案していたら、おそらく私は

心臓麻痺を起こしそうになり、こう言っていたでしょう。「絶対にダメです!それは家庭内に留まるべき問題です」。30年前の家族は団結していました。親は責任感があり、面倒見がよく、わが子のために良い例を示していました。そして、たいてい子どもは素直で、自分の親を尊敬していました。

時が移り変わり、親と子どもも一緒に変わりました。6時のニュースをつけたり、ちょっと新聞に目を見るだけで、現代の青少年の行いを多すぎるほど目にします。麻薬中毒の少年、非行グループの少年、AIDSの少年、妊娠した十代、中絶を受ける十代、ア

ル中の十代、そして最も悲しいもの、驚くほどの率で自分の命を捨てる十代。

映画、テレビ、ラジオ、音楽産業、広告、そして仲間の誘惑などが十代に起こす問題の一因となっています。また、多くの親は子どもを教育する仕事をおろそかにしています。

私の住んでいる所では、青少年がもめ事に巻き込まれ、親が警察や社会活動に携わっている人と呼ばれ出されることは珍しくもありません。「あなたがたソーシャルワーカーのそばにこの子を置いて下さい。私はもうこの子はいりません。問題を起こしすぎますから。」と言う親もいますし、「あなたのお子さんは今晩どこにいますか?」と尋ねて、「知りま

せん」と答えが返ってくるのも珍しくありません。もちろん、ほとんどの良心的で礼儀正しい親がそうであるわけではありません。また、乱交する十代が若者全体を象徴しているわけでもありません。しかしながら、警報を鳴らすに十分な統計が出ているのも事実です。

事実を直面しましょう。今日の多くの親は、息子にコンドームを与え、娘のために避妊薬を手に入れ、自分たちの娘を産婦人科に連れていつているのです。

ある有名な歌がこんな問いかけをしています、「昔ながらの恋愛はいつたいどうしてしまったのだろっ、あの勇気を与えてくれた恋愛は?私のお母さんやお父さんの知ってい

た恋愛は?昔ながらの恋愛はいつたいどうしてしまったのだろっ、笑いや試練や涙と共に何年も続いたあの恋愛は?」

本当にどうしてしまったのでしゅう? 私たち親が義務を果たすことをはなはだしく怠ったせいでしょうか? 私達の価値観を息子達の世代へ伝える義務を怠ったせいでしょうか。どういうわけか、社会の流れの中で、現在の非常に多くの親が、自分たちの親とは異なる価値観を持つようになりました。

これが現代の社会の状態なのです。私達は何をすべきなのでしゅうか? 何もしないでいるべきなのでしゅうか? 沈黙は私達がこの状況に納得してしまっていると思わせます。私達は重大な問題を手中に抱えています。十代の妊娠と中絶、そして多くの親はそれと関わりたがらず、実際、

関わってもいけません。私達はこの悪に立ち向かわなくてはなりません。またそれが実際に行為されている場所、すなわち学校で立ち向かわなくてはならないのです。

貞潔をどのように教えるべきなのでしょう？ ミッション・スクールならば宗教的な見地から教えることもできます。そうでない学校では価値観を教えることができません。そして、貞潔とは価値観なのです。お互いを尊重することを教えることもできます。子ども達が漫画や人気雑誌やテレビで見ている恋愛とは違う恋愛について教えることもできるので

ければ、フリー・セックスや中絶を推す人たちが議論もされずに私達の子と存在することになります。そしてそれは絶対に許してはいけないことなのです。

Issues9-10/95



私の赤ちゃんに生命を…

必死の選択

生活が苦しいため子どもを中絶するのは、どういう事なのでしょう。私はいつも不思議に思っていました。ある時、絶望的な状況下では不幸にも中絶を選択せざるを得ない場合があると知りました。

ジーンも私も、晩婚だったので子どもを持つとは思っていませんでした。けれどもそんな私達に、神様は愛しい二人の子ども、ドリュー「六才」とジュリアン「三才」を恵んで下さいました。子ども達もつと幼かった頃は、私達は様々な困難に直面しました。ジーンはそれまで21年間パートで航空会社に勤めていましたが、そこを辞めてフルタイムの仕事を探さなければならなくなりました。その後の5年間、彼は安定した職を得る

わると知らされました。

そこで、今度は私が仕事をみつけなければと考えました。「このままでは、私達はすべてを失ってしまっているのではないかと恐れていました。なぜなら、彼の失業手当だけでは家賃や食費を払うのに充分ではなかったからです。幸い、私達は俵約していたので、いくらからお金は貯金していましたが、それも長くは続かないとわかっていました。

私は、不動産の分野のキャリアをめざしました。この仕事なら時間も自由になれるし、私がない時はジーンが子ども達を見てくださいと思ったのです（保育園に入れる余裕はありませんでした）。そこで、不動産の学校の速成コースに飛び込みました。授業が進むにつれて、私は背中のひどい痛みを感じるようになっていましたが、無視してしまいました。おそらく詰め

込み勉強の無理がたたつてるのだろうと考えていたのです。痛みに耐えて一生懸命勉強し、やっと資格が取れました。専門学校の卒業式の日、ジーンが、子ども達と一緒に来てくれる事になっていたのです。

りません。家族の生活が自分ひとりにかかっていると考えたととても恐ろしい気がしましたが、そのことは口に出さず、また生理が予定より2週間遅れている事も知らせませんでした。

の費用すら私達には支払えませんが、様々な考えが頭の中をよぎりました。私達にはとてももう一人の子を持つ精神的・経済的な余裕はありませんでした。ジュリアンとドリユーでさえ育てられるかどうか危ぶんでいたのですから。

はすべて理由があるのだから。たとえそれが自分の力を超えるものだとしてみても、そう考えよう。最悪の場合、子どもを養子に出さなければならぬだろうが、うまくいけば私達は一緒に住めるだろう。

れまで知らなかった人々がジュリアンとドリユーの服や、私のマタニティーウェアまで与えてくれました。細かな点にいたるまですべての物事がうまくいきましました。ジェフが生まれる二ヶ月前には、ジーンに雇用保険のついたフルタイムの仕事が来たのです。それはまるで、

調が悪かったのですが、辛抱強くジーンが来るのを待ちました。けれども、彼はいつまでたっても現れません。私は卒業証書を受け取り、帰宅してみると、彼は泣いていました。失業手当が終了したという知らせが届いたということです。

ところが数日後、私の希望もうち砕かれました。思いがけない事に、42才にして私は妊娠していたのです。妊婦なんて誰も雇ってはいけません。私達には健康保険もなく、また高齢出産であること、以前の出産時の合併症などで、今回の妊娠には大きなリスクが伴っていました。多くの検査が必要で、帝王切開をしなければならぬのです。その医療費は1万8千ドルを超える事が容易に想像できました。私達はぼうぜんとしてました。これ以上の子どもはもう養いきれない。育児用品のほとんどは人にあげてしまっていました。出産

この時点で初めて私達はお互いを見つめ、中絶を考えました。私にはドリユーが生まれる数年前、わずか13時間だけこの世に生きた息子がいます。彼の事を思い出し、翌朝、私は固い決意でジーンに、赤ちゃんに生きるチャンスを与えてあげようと言いました。彼も同意してくれました。この子の生死を決めるなんて、私達は何様のつもりなのか。私達にはもうこれ以上子どもを養えないと思っただけで、神様がわざわざ私達に子どもをもたらして下さったのだ。それならば、神様の期待に応え努力してみよう。物事に

周囲の人々は、私達がどう対処するか見守っていました。けれども、正直に言っただけで、自分達の力だけですべてをやり通せたとは思っていません。物事の方が勝手に良い方向に向かい始めたのです。まもなく私は体調を取り戻し、不動産の仕事でとても忙しくなりました。ジーンが主夫としてジュリアンとドリユーの面倒を見てくれました。そのうち、ある旅行会社がジーンを長期の仕事に雇いました。生活するには不十分ですが、それでも仕事があったのです！私達はお金を借りて、妊娠と出産のための保険に入りました。友人や隣人、そ

1月11日、私は予定より3週間も早く破水し、健康な男の赤ちゃんを出産しました。初めてその小さいしわだらけの真っ赤な顔を見た時、私はこのように思いました。「そうよ、あなたはこの世に生まれる価値があるのよ。ジェフ、ママとパパはあなたが生まれてうれしいわ。幸せで愛情あふれる家庭をあなたに与えるためなら、これ

彼は私に「君が僕達の頼みの綱だ」と言いました。彼はそれまでにたくさん履歴書と手紙をあちこちに送り、面接もいくつか受けていましたが、仕事は見つかっていません。となると、私が不動産業にしっかりと腰をすえて、フルタイムの仕事をしなければな

りません。家族の生活が自分ひとりにかかっていると考えたととても恐ろしい気がしましたが、そのことは口に出さず、また生理が予定より2週間遅れている事も知らせませんでした。

この時点で初めて私達はお互いを見つめ、中絶を考えました。私にはドリユーが生まれる数年前、わずか13時間だけこの世に生きた息子がいます。彼の事を思い出し、翌朝、私は固い決意でジーンに、赤ちゃんに生きるチャンスを与えてあげようと言いました。彼も同意してくれました。この子の生死を決めるなんて、私達は何様のつもりなのか。私達にはもうこれ以上子どもを養えないと思っただけで、神様がわざわざ私達に子どもをもたらして下さったのだ。それならば、神様の期待に応え努力してみよう。物事に

周囲の人々は、私達がどう対処するか見守っていました。けれども、正直に言っただけで、自分達の力だけですべてをやり通せたとは思っていません。物事の方が勝手に良い方向に向かい始めたのです。まもなく私は体調を取り戻し、不動産の仕事でとても忙しくなりました。ジーンが主夫としてジュリアンとドリユーの面倒を見てくれました。そのうち、ある旅行会社がジーンを長期の仕事に雇いました。生活するには不十分ですが、それでも仕事があったのです！私達はお金を借りて、妊娠と出産のための保険に入りました。友人や隣人、そ

1月11日、私は予定より3週間も早く破水し、健康な男の赤ちゃんを出産しました。初めてその小さいしわだらけの真っ赤な顔を見た時、私はこのように思いました。「そうよ、あなたはこの世に生まれる価値があるのよ。ジェフ、ママとパパはあなたが生まれてうれしいわ。幸せで愛情あふれる家庭をあなたに与えるためなら、これ

から先、私達は何でもするわ。それがどんなに大変な事でも。」

ISSEUS 11-12/1994

組織の移植

討論は続く

一九九三年、もともとブッシュ大統領が發布した、胎児の組織の実験への米国連邦基金の禁止令をクリントン大統領が廃止しました。

胎児の組織がパーキンソン病の治療に使われる可能性について、少なからずの関心が寄せられてきました。この病気は人間の脳のある神経細胞が死んでしまう事によって生じます。死んでしまったその神経細胞のかわりにまだ生まれていない赤ちゃんの脳の細胞を使いたいと考えているのです。

パーキンソン財団など、いくつかの医療組織を含めて広い範囲の団体が、指摘されたような良い効果が本当にあるのかどうか

調べる為に、胎児の組織を実験に使う事を支持しています。しかし今のところすべてのこの様な実験は、決定的な結果を持っていません。しかしパーキンソン病に苦しむ人々や、他の変質的な病気のたくさん犠牲者は、有効な治療法と認められるのを願って、更なる実験を求めています。

プロ・ライフの人達にとつての問題というのは、移植される細胞が中絶された胎児の脳から得られる、という事です。更に、それらは生きている細胞でなければならぬ為に、それらが生きている胎児の脳から得られるからなのです。細胞は、殺される前の生きている赤ちゃんから、文字通り収穫されるのです。

ブッシュ大統領は穴埋めの手段として、実験を目的に使う為の組織の貯蔵所を設立しました。そこに

ある組織は、意図的に行われた中絶を含まない、流産、早産、子宮外妊娠等のケースから得られました。これらの組織は前に述べた治療法が実際使えるかを立証するのに使われるものでした。

しかしブッシュ大統領は、この様な組織貯蔵所を設立するにあたって、胎児の組織移植の支持者からの基本的要求を承認しました。まず第一に、貯蔵所にある組織が、普通の状態でないだけでなく死んでいるかもしれないという事から、満足のいくものであるかどうか疑わしいとされました。更に、胎児の組織移植の支持者の数は、生きている健康な組織の供給を越えてしまうかもしれないと必要とされるのは、実験者が膨大な数の実験を申し出て、中絶支持者である「仲間の書評家」に「好ましい科学」と評価される事なのです。しかし

最終的に、もし実験が成功したら、アメリカの百万人に近いパーキンソン病の患者は、早産などによって提供され得る数を上回る組織を要求するでしょう。つまりブッシュ大統領は、実験を続ける許可を出した事によってすでに、国が胎児の組織を慣例として中絶から使用する道へと導いてしまったのです。クリントン大統領による胎児の組織基金への禁止に関する決定は、単にその道の一里塚にすぎないので

す。もしパーキンソン病の患者の実験が失敗に終わっていたら、胎児の組織への需要は消えたかもしれませんが。しかしパーキンソン病の治療法の実験の結果にも関わらず、新しい開発によって胎児の組織への需要が大きく増えています。

今日の「生合成皮膚」の実験は、パーキンソン病の

実験よりずっと成功して
います。火傷の犠牲者や皮
膚癌に苦しむ人々は大き
な皮膚の移植用片を必要
とします。可能であれば、
免疫による拒絶の問題を
避ける為に、移植用片は患
者自身の身体の他の部分
からとられます。しかし激
しい火傷を負った患者で
は、移植用片を得るのに充
分な皮慮がないかもしれ
ません。

表皮（皮膚の外側の層）
の下にある真皮は、表皮よ
りも拒絶反応をおこしま
せん。だから提供者からの
移植用片は、しばしば受け
入れられます。真皮の移植
用片は、火傷の犠牲者に
とって救いの神なのです。
現在テストされている

細胞は、緻密に編まれた、
生物による分解可能な纖
維の網の上に置かれ、栄養

になる溶液の中に浸され
ます。細胞は育つて、網の
上で何層にもなるまで増
えていきます。そしてこの
層は移植され、網の目は最
後には消えて、受け入れる
人の失ってしまった皮膚
に代わる健康な真皮が残
るので。技術は真皮の組
織を育てるだけに限られ
ていません。その技術は、
培養された軟骨や肝臓を
育てるのにも使われ、この
二つは人の免疫システム
にも受け入れられていま
す。軟骨は、鼻、膝や耳の
再形成に使われます。肝臓
は、衰弱した肝臓の代りに
使われます。

人情の視点から見れば、
この生合成組織は大きな
希望を与えてくれます。命
を救い、痛んだ関節の機能
を回復させ、事故や癌に
よって破壊した顔の形を
再建したりできます。問題

は、その組織がどこから来
るのか、なのです。

現在では、皮膚へと成長
させる元の組織は、病院で
の包皮切除によって得ら
れる包皮からとられます。
これは明らかに不要な組
織で、それを有益な使用法
によって復活させるのは、
喜ばしいだけでなく賞賛
に値します。

しかし一度技術が正規
の治療法として証明され、
取り入れられたら、この供
給源では必要とされる皮
膚のすべてを与える事は
できません。それにこの供
給源では、軟骨や肝臓の組
織まで提供する事はでき
ません。

これまで成功していな
いにも関わらず、パーキン
ソン病を治す事が出来る
として胎児の組織を使用
しようというプレッ
シャーを与えられている
今、培養された生合成組織
が正規に医療実地に至っ
たら最後、何が起るか明

瞭です。要求される「種」
の物質の量を賄える供給
源は、中絶された胎児だけ
です。組織は生きていなく
てはならない為、生きてい
る子どもから脳の組織だ
けを取り出せばいいとい
う問題でなく、生きている
身体全部を、刈り入れ、培
養される組織の始めとし
て使われる為に細かく切
り刻む事なのです。

過去二十一年間に我々が
見た恐怖は、この先に現れ
るものの試演にすぎない
かもしれません。中絶カウ
ンセラー達は彼等のお客
を、これには良い事もある
のです。この組織は誰かの
命を救うのに使われるの
です。「と安心させる事に
なるでしょう。更には、赤
ちゃんが「刈り入れ」られ
るようになるまで「育て
る」為に、女性にお金が支
払われるようになるかも
しれません。

プロ・ライフ運動に関わ
る私達は、現在の培養組織

の医療研究が持つ含みに
敏感でなければなりません。
培養真皮が認められた
医療実地となるのに一年
か二年しかありません。も
しそれが認められたなら、
中絶と組織の刈り入れの
つながりは、すぐに作られ
てしまいます。私達は、た
とえ火傷の犠牲者を救え
るとしても、産まれる前の
赤ちゃんから組織を刈り
入れるのは高すぎる代償
であるという事を、人々に
教育しなければならぬ
のです。

『養子縁組に

感謝して』

「これは私が23年前に養子に出した娘から受け取った手紙です。」

親愛なる友達へ

正直に言つて、私はこの手紙の中で、あなたにどう挨拶すればよいのかわかりませんでした。Wさんからあなたの居場所を捜して当たると聞いたとき、私にだけ喜んだかあなたにはわからないと思います。あなたが私からの手紙を受け取ってくれると聞いてもつと嬉しくなりました。

まず始めに、私に生命を与えてくれてありがとうございました。私を養子に出す決心は、痛ましく、恐ろしく、困難なものであったと思いますが、あなたは

私のために愛と勇気をもつて決心してくれました。今までの人生で、私がい

つも幸福と愛に囲まれていたことを、もつと上手にあなたに伝えられればと思います。一つの愛の行動がこんなに大きな影響を与えるなんて驚きです。(養)父母にとつてみれば、人生にもたらされた幸福と愛にずっと感謝していただくことでしょう。私たちは仲が良く、愛し合っている家族です。

私の両親ともカトリック教徒で大学を出ています。母は教育学の学士号を持っており、父は科学の修士号を持っています。

私はあなたの生活に押し入るつもりはないことをわかってください。あなたから何かを要求したり欲しがったりもしません。ただ、私は幸せな人生を送っていることをあなたに伝えて、あなたも幸せであることを願いたいだけ

なのです。

もし私と文通してくれるのなら、私たちのファーストネームを使って「友達」でいきましょう。私は是非そうしたいのです。

あなたの幸せを願い、時々お互いに手紙を書きましよう。この手紙は、平和と友情と感謝を表しています。

愛をこめて

「私は自分の決心を後悔したことはありません。どうして後悔などしましようか。私は子どものために最良と思ったことをしたのです。私は毎日、娘と一緒にいる幸せな恵まれた家庭のことを神に感謝しています。」

Celebrate Life 10/94

『不慮の発砲から

得た教訓』

最近の新聞の記事に、悲惨な話がありました。その新聞には名前は載っていませんでしたが、男の人が家に帰ってくると、家の中のたんすから、怪しげな足を引きずるような音が聞こえたのです。その頃、近所で強盗があつたのを知っていたので、彼は緊張しました。彼はピストルに手を伸ばしました。その後、彼の娘が、友達と隠れていたたんすの中から、飛び出して来ました。何も言うひまのない内に、娘は、おびえた父親に、撃ち殺されてしまったのです。

この父親が、一生抱え続ける巨大な罪の意識は、誰にでも想像出来ます。恐怖心から、娘を犠牲にしてしまったのです。同じ傷が中絶患者にも経験されてい

るといふ事を、私達は周りに、知らせなければなりません。予期しなかつた妊娠にあわてふためき、恐怖心から女性は、中絶を選んでしまふのです。後になつて、もう取り替えしがつかなくなつて、彼女等はその恐怖のせいで、自分達の子どもを犠牲にしてしまつた、と気付くのです。沢山の中絶した女性達が一生続ける後悔は、撃たれた娘の上に覆いかぶさる様にして泣く父親のそれと少しも違ひません。どちらにも、真実を知るまで充分待たなかつた事で、自分を責めているのです。どちらも、それを、生涯の中で、一番大きな犠牲を払つた間違いだと思つのです。

Celebrate Life 10/94

暴力

とが国の最優先課題となつた日には、暴力犯罪も大幅に減少するだろう。

「あなたの心ひとつで運命が左右される子どもを殺そうとするのは、何と貧しい考えだろう」と、カルカッタのマザー・テレサは語る。世界は今、急ピッチで血も涙もない場所になりつつある。暴力が暴力を生む、という格言は今の時代にぴつたりだ。暴力廃止が中絶廃止につながっていく事を願ってやまない。

現代社会で最も深刻な問題は暴力だ。銃の所持規制、犯罪者の懲役を重くする、職を与える、崩れかけた家庭の権威を高めるなど、数々の対策が講じられている。どれも大事なことだが、暴力の本当の原因は別にある。それは、生命尊重の心の欠如だ。中絶がその引き金となっている。非力なる人命を奪う行為を認めるのは、人殺しが日常茶飯事であると認めているようなものだ。

何かしら理由をつけて中絶を認可、奨励しようとする指導者が、あまりにも多すぎる。世の中の道徳倫理は崩壊寸前だ。子どもも大人もみな、中絶は当然の行為と教えこまれている。あちこちで大量殺戮が行われている。中絶を廃し、生命の尊さを指導するこ

Celebrate Life5-6/94